

# 令和5年度 活動報告書

熊本県地域医療支援機構 / 熊本大学病院 地域医療支援センター  
熊本大学病院 地域医療・総合診療実践学寄附講座  
地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座  
感染症対応実践学寄附講座



# もくじ

## 1 はじめに

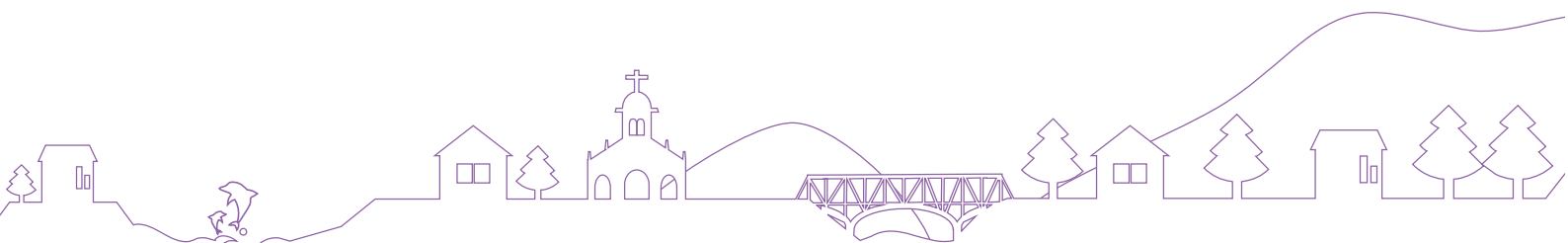
- |                                 |   |
|---------------------------------|---|
| 1. 熊本県地域医療支援機構理事長・病院長あいさつ ..... | 1 |
| 2. 地域医療支援センター長あいさつ .....        | 2 |

## 2 熊本県地域医療支援機構 (熊本大学病院 地域医療支援センター)

- |  |    |
|--|----|
| 1. 活動概要 .....                                  | 3  |
| 2. 活動報告  |    |
| (1) 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師の<br>キャリア形成支援 ..... | 4  |
| (2) 地域の医療提供体制の確保に向けた支援 .....                   | 8  |
| (3) 女性医師キャリア支援及び子育て医師の就業継続及び復職支援               | 9  |
| (4) 県内外の医師、医学生等からの相談対応及び求人に関する取組み              | 14 |
| (5) その他、機構の目的を達成するために必要な取組み .....              | 15 |

## 3 地域医療・総合診療実践学寄附講座

- |                    |    |
|--------------------|----|
| 1. 活動概要 .....      | 19 |
| 2. 活動報告            |    |
| (1) 調査研究 .....     | 20 |
| (2) 教育活動 .....     | 20 |
| (3) 教育拠点への支援 ..... | 24 |
| (4) 地域医療の支援 .....  | 25 |



## 4 教育拠点

### 【くまもと県北教育拠点】

|           |    |
|-----------|----|
| 1. 活動概要   | 26 |
| 2. 年間活動実績 | 26 |
| 3. 活動報告   | 27 |

### 【河浦教育拠点】

|         |    |
|---------|----|
| 1. 活動概要 | 30 |
| 2. 活動報告 | 30 |

## 5 熊本県医師修学資金貸与学生からの報告

|               |    |
|---------------|----|
| 1. 地域医療ゼミ     | 33 |
| 2. 地域医療特別実習   | 36 |
| 3. 令和5年度卒業生の声 | 38 |

## 6 地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 1. 活動概要及び地域医療の現状分析と考察 | 41 |
| 2. 教員一覧               | 42 |
| 3. 事業報告及び派遣先医療機関データ   | 43 |



## 7 感染症対応実践学寄附講座

1. 活動概要
  - (1) 寄附講座設置概要 ..... 106
  - (2) 熊本県内における感染症専門医および施設認定の状況 ..... 108
2. 年間活動実績 ..... 109

## 8 業績

1. 熊本県地域医療支援機構（熊本大学病院 地域医療支援センター）… 117
2. 地域医療・総合診療実践学寄附講座 ..... 118
3. 教育拠点（くまもと県北教育拠点・河浦教育拠点） ..... 119
4. 総合診療科 医局員・専攻医 ..... 119

## 9 おわりに

1. 教員 ..... 121
2. 非常勤講師・客員研究員 ..... 123
3. 総合診療科 医局員・専攻医 ..... 125
4. 事務スタッフ ..... 129

## 10 あとがき ..... 131

# はじめに

## 1. 熊本県地域医療支援機構理事長・病院長あいさつ



熊本県地域医療支援機構 理事長  
熊本大学病院 病院長

馬場 秀夫

皆様方には、平素より熊本県地域医療支援機構の運営、ならびに「地域医療・総合診療実践学寄附講座」、「地域医療連携ネットワーク寄附講座」及び「感染症対応実践学寄附講座」の取り組みに、多大なご支援とご協力をいただき、深く感謝申し上げます。この度、令和5年度の活動報告書を作成致しましたので、ご一読いただければ幸いに存じます。

さて、熊本県における医師の地域偏在を解消することを目的に、平成25年12月に県により設置された本機構も、設置から早10年が経過しました。また、医師の地域偏在の解消とともに、地域医療の充実のため地域医療を担う総合診療医等の養成を目的に設置した「地域医療・総合診療実践学寄附講座」も設置から8年、熊本県の地域医療連携ネットワーク構想を推進するために設置した「地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座」も5年が経過し、昨年度は新たに、新興感染症や院内感染予防などに対応可能な感染症専門医の育成等を目的に「感染症対応実践学寄附講座」も設置したところです。

熊本県は全国的には医師多数県に数えられますが、県内の地域ごとの比較をすると熊本市への集中がみられ医師の地域偏在が顕著となっています。医師が慢性的に不足している地域においては、人口減少と高齢化が進展する中で、この数年、日本中、そして世界中に蔓延することとなった新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、地域の医療機関は地域住民への適切な医療サービスの提供に非常に苦労されてきました。地域における持続的かつ適切な医療提供体制の確保を図ることがいかに重要であるか改めて認識しました。

本機構においても、コロナ禍での事業展開は決して容易ではなく、寄附講座も含めて、当初の計画を中止、変更、縮小するといった決断を余儀なくされ、十分な取り組みができないこともありました。オンライン配信等々の工夫をこらし、事業の歩みを止めることなく、できることを一つ一つ着実に取り組んでまいりました。

令和5年度に入り、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行する中で、国内の社会経済活動も徐々に平常へと向かいつつありますが、本機構や寄附講座の取り組みについても、ようやく計画どおりに事業が実施できるようになり、この活動報告書でもこうしてその報告ができるようになったところです。

しかしながら、医師の地域偏在の解消には長い時間を要します。依然として本県の地域医療を取巻く状況が厳しい中であっては、引き続き、本機構と「地域医療・総合診療実践学寄附講座」、「地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座」が相互に連携して、それぞれの役割を果たしていくことが肝要であると考えます。

本機構といたしましては、今後とも熊本県、医師会、市町村並びに地域医療関係者などの関係諸団体との連携を一層強化し、県内各地のニーズに沿った地域医療が提供されるよう努力してまいりますので、関係者の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

(令和6年3月吉日)

## 2. 地域医療支援センター長あいさつ



熊本大学病院  
地域医療支援センター センター長  
地域医療・総合診療実践学寄附講座  
総合診療科 教授

松井 邦彦

いつも地域医療支援センター / 地域医療支援機構、および当寄附講座の活動に、ご協力いただき、有難うございます。令和5年度の活動報告書をお送りいたします。ご高覧いただければ幸いです。

この一年を振り返ると、新型コロナウイルス感染症の流行は収束し、令和5年度は、以前の日常を取り戻すための期間でした。この数年間、流行のために中止され途切れてしまった様々な活動を、少しずつ再開することになりました。

その一つに、夏季地域医療特別実習の再開があります。新型コロナウイルス流行のために、この数年間、開催することができませんでした。流行の波が一段落した時点で、今回こそはと計画し、手筈を整え準備したものの、数か月後の実施する頃には次の大きな流行波が到来し、中止を余儀なくされたこともありました。そのような中、4年ぶりとなる実習の再開です。本年度は天草地域に実習先を定め、一泊二日で御所浦島、湯島、および上天草で、行いました。更に冬休みの期間中にも、冬季地域医療特別実習を、小国・阿蘇地域で行いました。夏の実習に参加できなかった方々にも、ご参加いただきました。これは、以前は行っていなかった、新しい取り組みです。いずれの実習でも、行く先々で大変温かくお迎えいただきました。お世話になった方々に、この場を借りて、感謝申し上げます。

この数年間で、ウェブ上で画面を通じた会議や面談が、すっかり一般化しました。往來の必要がなく、非常に便利であることは、言うまでもありません。その一方で、直接、顔を合わせてお話しする意義について、考える機会にもなりました。地域に赴いた実習や、対面での面談では、何が得られると期待されるのでしょうか。医療の分野でも、DXの導入は当然です。地域医療を取り巻く様々な問題についても、医療DXの導入により大きな恩恵が期待されます。オンライン診療も、すでに普及しつつあります。しかし、それでは得られないものは何か、手間と時間をかけて、対面で行う意義は何なのか。本年度、さまざまな活動を再開するにあたり、常に意識することになりました。今後も引き続き、検討を行うべき課題だと思えます。

最後に、いつも私たちを支えてくださっている、熊本県医療政策課の皆様、また熊大病院地域医療支援センターのスタッフの皆様に感謝を申し上げます。



# 熊本市地域医療支援機構

(熊本大学病院 地域医療支援センター)

## 1. 活動概要

熊本市地域医療支援機構は、熊本県(以下「県」という。)における医師の地域偏在を解消することを目的として、県内における医師不足の状況等を把握・分析し、医師のキャリア形成支援と一体的に医師不足医療機関の医師確保の支援等を行うため、平成25年11月に県により設置されました。以来、本機構が担う事業の一部については、県から国立大学法人熊本大学に委託され、同大学病院に設置されている地域医療支援センターと本機構が一体となって様々な事業を実施しているところです。

令和5年度においても、本機構の理事会において承認された令和5年度事業計画に基づき事業を進めて参りましたが、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行されたことに伴い、地域医療特別実習やこの数年、コロナ禍において活動の中止や縮小を余儀なくされてきた多くの事業について、徐々に活動を再開することができました。

また、県の寄附を受けて、熊本大学(大学病院)に設置されている地域医療・総合診療実践学寄附講座や地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座とも密接に連携しつつ、県内の地域医療連携ネットワークを構築することにより、地域の安定的医療体制の整備・充実に努めました。

### 【主な取り組み】

- (1) 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援
- (2) 地域の医療提供体制の確保に向けた支援
- (3) 女性医師及び子育て医師の就業継続及び復職支援
- (4) 県内外の医師、医学生等からの相談対応及び求人に関する取り組み
- (5) その他、機構の設置目的を達成するために必要な取り組み
  - ・熊本県地域医療支援機構講演会の開催
  - ・地域医療支援機構広報誌「COCODE ! (ココデ)」の発行

### 【スタッフ】

松井 邦彦 地域医療支援センター長／総合診療科 教授  
荒木 智 地域医療支援センター 副センター長  
高柳 宏史 特任助教／総合診療科  
古賀 義規 客員研究員(天草市立御所浦診療所 所長)  
片岡恵一郎 客員研究員(小国公立病院 病院事業管理者)  
松本 朋樹 客員研究員(松本内科・眼科 理事)  
無田 英昭 地域医療支援コーディネーター  
川添 光芳 地域医療支援コーディネーター  
原田 淳子 女性医師復職支援コーディネーター  
横手友紀子 事務補佐員

## 2. 活動報告

### (1) 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師のキャリア形成支援

#### ① キャリア形成プログラムに基づく修学資金貸与学生及び医師へのきめ細やかな支援 (一人一人の状況に応じた助言、相談対応、熊本大学病院各診療科との連携・調整等)

##### ● 貸与学生及び貸与医師に対する情報提供、相談窓口の運営

貸与学生及び貸与医師のキャリア形成と義務履行の両立を支援するために、貸与制度に関する質問や相談等に適宜対応するとともに、キャリア形成プログラムの制度改正等の際には、メールやホームページにより情報提供を行いました。また、貸与医師に対して、義務年限及び当該義務の履行状況が確認できるよう、年度当初に各貸与医師へ義務履行の状況を文書で通知しました。

##### ● 知事指定病院等への協力依頼 (令和5年4月)

貸与医師が勤務する知事指定病院等の病院長に対して、貸与医師のキャリア形成支援への協力を依頼する文書を発出するとともに、第2、第3グループの病院に勤務する医師については、専門性の向上等のため、毎週1回の勤務先以外の医療機関での研修の実施について協力いただくよう依頼しました。

##### ● 貸与学生及び貸与医師との面談の実施 (令和5年5月～9月)

県医療政策課と連携して、貸与学生35名(既卒者1名含む)、貸与医師60名を対象に対面形式(県外枠2名を除き)で面談を実施しました。貸与学生については、生活状況や将来の希望等について聞き取り、各学生の状況に応じた生活面、学習面等に関して指導、助言を行いました。貸与医師については、生活状況や勤務状況、今後のキャリアプラン等について聞き取り、各医師の状況等に応じた指導、助言を行いました。

##### ● 地域医療特別実習の実施

地域医療特別実習は地域医療・総合診療実践学寄附講座と連携し、貸与学生や自治医科大生(熊本県出身者)のキャリア形成の一環として地域医療の現場を知ってもらうために実施してきました。新型コロナウイルス感染症の影響により3年間の休止を余儀なくされていましたが、今年度は4年ぶりに実施しました。

8月に一泊二日の日程で天草上島・御所浦地域において実施した夏季実習には、20名の貸与学生及び自治医科大生が参加しました。また、12月に一泊二日の日程で阿蘇地域において実施した冬季実習には、大学の試験等のために夏季実習に参加できなかった12名の貸与学生が参加しました。

(詳細については21ページ参照)

##### ● 熊本大学病院関係診療科への訪問 (令和6年1月～2月)

県医療政策課と連携し、令和6年度から専門研修プログラムに従事する貸与医師が所属する予定の診療科(医局)を訪問し、修学資金貸与制度について説明を行うとともに、貸与医師がキャリア形成プログラムに基づきキャリア形成と義務履行の両立を図ることができるよう働きかけました。

#### ② キャリア形成プログラムに基づく修学資金貸与医師に係る派遣計画案の作成及び負担軽減策の実施

##### ● 貸与医師の派遣人事説明会の開催 (令和5年5月)

次年度の派遣計画案の策定を、熊本大学病院の関係診療科(医局)の理解と協力を得てより円滑に進めるため、県医療政策課と連携し、貸与医師の派遣人事に関する説明会を開催しました。

説明会では、県医療政策課から、大学病院の関係診療科長・医局長に対して、医師修学資金制度や貸与医師の令和6年度の派遣先医療機関決定に向けた事務スケジュール等について説明を行うとともに、①貸与医師との面談時に貸与医師が提出することとなっている次年度勤務先の希望調書やキャリアプランに関する「医局と貸与医師との意見交換の実施」、②各診療科(医局)に所属する貸与医師の令和6年度派遣先医療機関の調整結果の報告等について協力を求めました。

● 貸与医師の派遣計画案の策定 (令和6年2月)

計画案作成にあたっての基本的な考え方について、その考え方の基本的なルールも含めて、考え方の整理を行いました。なお、令和6年度に医師3年目以上となる医師については、各診療科における貸与医師の派遣人事の調整結果の報告(10月)をベースに、県内各地域における医師不足の状況や研修先・勤務先の状況等を踏まえ、大学(医局)による医師派遣との整合性の確保にも配慮しつつ、貸与医師本人の意向を最大限尊重し、貸与医師が所属する大学病院の診療科との調整等を行った上で、派遣計画案を作成しました。

| 【派遣計画案概要】                |              |
|--------------------------|--------------|
| 1) 貸与医師(時点:令和6年4月1日)     |              |
| ● 医師年数3年目以上の医師           | 52名          |
| ● 臨床研修医(医師年数1~2年目)       | 14名(予定)      |
| 2) 医師3年目以上の医師の病院区分ごとの派遣数 |              |
| ① 知事指定病院等                | 31.5人(34.2人) |
| ● 第1グループ                 | 14.0人(34.2人) |
| ● 第2グループ                 | 12.5人(13.7人) |
| ● 第3グループ                 | 5.0人(5.0人)   |
| ② その他の病院(後期研修・義務内)       | 9.0人(5.0人)   |
| ③ その他の病院(後期研修・義務外)       | 10.5人(6.8人)  |
| ④ その他                    | 1.0人(0.0人)   |

※年度内に勤務先が変わり、複数の病院で勤務する貸与医師もいるため、人数は「人年法」でカウント。  
 ※ ( ) は令和5年度の実績。

③ 地域医療を志す医学生及び地域医療に従事する医師を支援する制度の運営

● 貸与学生及び貸与医師に対する修学資金貸与制度及びキャリア形成プログラムに関する周知

令和5年4月に、地域医療・総合診療実践学寄附講座と連携し、県医療政策課の協力も得て、新入学貸与学生を対象とした制度説明会及び、令和6年2月に貸与学生を対象とした制度とキャリア形成に関する説明会を開催したほか、令和5年5月~9月にかけて貸与学生及び貸与医師の面談等の機会を活用し、制度とキャリア形成プログラムの周知を図りました。

【熊本県医師修学資金貸与人数一覧(2023年3月現在)】 (単位:人)

| 区分            | 年数・学年 | 地域枠 | 一般枠 | 県外枠 | 計   | 男  | 女  |
|---------------|-------|-----|-----|-----|-----|----|----|
| 後期研修<br>/地域勤務 | 9年目   |     | 2   |     | 2   | 1  | 1  |
|               | 8年目   | 4   | 1   |     | 5   | 3  | 2  |
|               | 7年目   | 4   | 3   |     | 7   | 6  | 1  |
|               | 6年目   | 5   | 2   |     | 7   | 4  | 3  |
|               | 5年目   | 5   | 4   |     | 9   | 7  | 2  |
|               | 4年目   | 3   | 6   |     | 9   | 8  | 1  |
|               | 3年目   | 5   |     |     | 5   | 3  | 2  |
|               | 小計    |     | 31  | 21  | 0   | 52 | 37 |
| 臨床研修          | 2年目   | 5   | 3   |     | 8   | 2  | 5  |
|               | 1年目   | 6   | 1   |     | 7   | 2  | 5  |
|               | 小計    |     | 11  | 4   | 0   | 15 | 4  |
| 在 学 生         | 6年生   | 6   | 1   | 1   | 8   | 3  | 4  |
|               | 5年生   | 6   |     |     | 6   | 3  | 2  |
|               | 4年生   | 4   |     | 1   | 5   | 2  | 2  |
|               | 3年生   | 5   |     |     | 5   | 1  | 1  |
|               | 2年生   | 2   |     |     | 2   | 5  | 4  |
|               | 1年生   | 8   |     |     | 8   | 4  | 3  |
|               | 小計    |     | 31  | 1   | 2   | 34 | 18 |
| 合 計           |       | 73  | 26  | 2   | 101 | 59 | 41 |

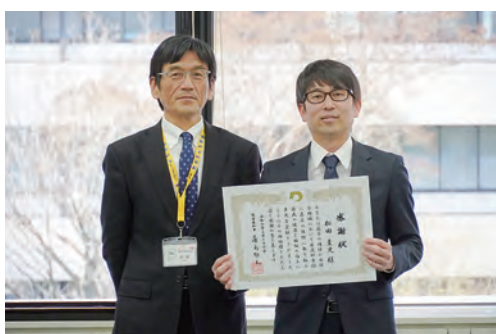
58.4% 40.6%

## ● 知事表敬訪問及び知事感謝状贈呈(令和6年3月)

令和5年度卒業生(修学資金貸与者)7名のうち6名(1名は体調不良のため欠席)が、蒲島知事を表敬訪問し、それぞれ貸与医師としての今後の抱負などを知事に語り、知事からは激励の言葉をいただきました。また同日、令和5年度をもって義務年限を満了する貸与医師2名が、同じく自治医科大卒医師で令和5年度末をもって義務年限を満了する医師2名と共に、知事感謝状の贈呈を受けました。



知事表敬訪問



知事感謝状贈呈(左：松田医師、右：河野医師)

## ④ 熊本県医師修学資金貸与条例に規定する知事指定病院等における 医師不足の状況等に関する調査・分析

知事指定病院のなかでも特に医師の確保が難しい第2、第3グループの18病院を対象に、医師不足の状況や子育て支援等に関する調査を実施しました。調査結果については、調査協力を得た病院にフィードバックするとともに、熊本県、熊本大学病院関係診療科と情報を共有し、貸与医師及び貸与学生にも情報提供を行いました。

調査結果の概要については以下のとおりです。

### 【調査結果の概要】

#### 1) 医師不足の状況について

- ・今後、常勤医師の不足が見込まれると15病院が回答しました。
- ・医師不足が見込まれる理由としては、①地域の診療ニーズの変化等への対応、②常勤医師の慢性的不足、③職員(医師)の退職、④常勤医師の高齢化が上位を占めています。
- ・医師が不足している診療科については、①総合診療科、②整形外科、③消化器内科、④呼吸器内科が上位を占めています。
- ・常勤医師の熊本大学病院からの派遣に関して、第2グループの病院と第3グループの病院との比較においては、第2グループに比べ規模が比較的大きい第3グループの病院の方が、一病院当たりの常勤医師の派遣が多く、各グループ内においても、病院の規模(病床数、標榜診療科数等)との正の相関(規模が大きいほど派遣者数も多くなる)が一定程度見られました。

#### 2) 義務履行中の地域枠医師の受入れについて

- ・義務履行中の地域枠医師の受入れが可能との回答があった病院は15病院で、いずれも受入れにあつ

て専門医資格を必要とする病院はありませんでした。

- ・診療科としては①総合診療科、②呼吸器内科、③消化器内科、脳神経内科、整形外科が上位を占めています。
- ・今後、医師不足が見込まれるとしながら、地域枠医師の受入れについては「受入れ可能」との回答がなかった2病院について、その理由を事後調査(聞き取り)で確認したところ、「病院に若手医師を育成する環境がないため、臨床経験の浅い地域枠医師の受入れは難しい」、「病院としての医療機能の確保、医療体制の整備といった面では常勤医師の不足はあるものの、人件費コストと医療費収入の兼ね合い(病院経営)の面から考えると、地域枠医師に限らず、常勤医師の新たな雇用が難しい」といった主旨の意見があげられました。

### 3) 非常勤医師の採用について

- ・非常勤による診療を行っている診療科があるとの回答があった病院は15病院でした。
- ・診療科としては、整形外科のほか、消化器内科、循環器内科、総合診療科が上位を占めますが、ほとんどの診療科で非常勤医師による診療を行っていました。
- ・非常勤医師の派遣元については、その約7割(総診療時間ベース)を熊本大学病院が占めており、第2グループの病院と第3グループの病院との比較においては、比較的規模の小さい病院が多い第2グループの病院の方が、非常勤医師による一週当たりの延べ総診療時間が長い傾向にある一方で、各グループ内においては、病院の規模との正の相関が一定程度見られました。

### 4) 宿日直体制について

- ・14病院が外部に応援を依頼している状況です。
- ・医師一人当たりの宿直の頻度については「週に1回」の病院が最も多く、他は「週に2~3回」から「月に1~2回」までと、病院による差が目立ちました。応援元では、熊本大学病院が最も多く、全体の6割近くを占めています。

### 5) 保育環境の整備状況について

- ・17病院が、近隣(病院から概ね1.7Km以内)に保育施設があることが確認されました。

## ⑤ その他

### ● 地域医療ゼミの開講

地域医療ゼミについては、貸与学生へのきめ細やかな支援の取組みの一環として、貸与学生及び自治医科大生(熊本県出身者)の地域医療マインドを卒前から涵養していくことを目的に、地域医療・総合診療実践学寄附講座との連携により、地域医療ゼミを開講し、年間を通して学生企画を基本としたシネメデュケーション、多職種連携についての演習、コミュニケーションをテーマに外部講師による講演会などを実施しました。

(詳細については21ページ参照)

### ● 地域医療総合演習の開講

地域医療総合演習は、令和4年度の文部科学省のポストコロナ時代の医療人材養成拠点形成事業で長崎大学、熊本大学、鹿児島大学の3大学連携のプロジェクトが採択され、その一環で、熊本大学では、医学科のカリキュラムの中の選択科目として特に地域枠学生(5年次)を主な対象にした地域医療総合演習を開講し、毎月1回実施しました。内容は教育指導者として必要な能力を講義とワークショップ形式で学修し、11月の地域医療ゼミでは受講学生が講師となり他の地域枠学生に教育を行うことで、教育指導者としての学びを深めることができました。

## (2) 地域の医療提供体制の確保に向けた支援

### ① 医師が不足する医療機関への診療支援並びにテレビ会議システム等を活用した遠隔診療・教育支援

#### ● 外来診療支援及び医師が不足する医療機関への診療支援

熊本大学病院においては、地域医療・総合診療実践学寄附講座と連携して「総合診療科」の外来診療を、月曜日から金曜日まで実施しました。また、学外においては、当機構の専任医師による診療支援のほか、地域医療・総合診療実践学寄附講座との連携により、医師が常勤又は非常勤医師として、医師が不足する病院へ赴き診療支援を行いました。

【熊本大学病院 総合診療科外来】

| 月  | 火  | 水  | 木   | 金  |
|----|----|----|-----|----|
| 荒木 | 松井 | 高柳 | 佐土原 | 北村 |

【医師が不足する医療機関への診療支援】

|                      | 医師名      | 支援先医療機関      | 支援内容         |
|----------------------|----------|--------------|--------------|
| 専任医師                 | 高柳 宏史    | 上天草総合病院      | 非常勤 通年 (週1回) |
|                      |          | 御所浦診療所       | 非常勤 通年 (週1回) |
| 地域医療・総合診療<br>実践学寄附講座 | 松井 邦彦    | くまもと県北病院     | 非常勤 通年 (週1回) |
|                      | 荒木 智     | 荒尾市立有明医療センター | 非常勤 通年 (週1回) |
|                      |          | 天草中央総合病院     | 非常勤 通年 (週1回) |
|                      | 佐土原 道人   | 小国公立病院       | 非常勤 通年 (週1回) |
|                      |          | 阿蘇医療センター     | 非常勤 通年 (週1回) |
|                      | 北村 泰斗    | くまもと県北病院     | 非常勤 通年 (週1回) |
|                      |          | そよう病院        | 非常勤 通年 (週1回) |
|                      | 鶴田 真三    | 河浦病院         | 常勤           |
| 中村 孝典                | くまもと県北病院 | 常勤           |              |

#### ● 合同カンファレンス、レジデント日の実施

地域医療・総合診療実践学寄附講座との連携により、総合診療科の若手医師を対象にテレビ会議システム等を活用した合同カンファレンスやレジデント日などの取組みを実施し、総合診療医としての能力向上に向けた助言、指導を行いました。

#### ● 医療情報の提供

インターネット臨床支援ツールである「今日の臨床サポート」や「プロシージャーズ・コンサルツ」の利用登録を行い、貸与医師や貸与学生、自治医科大学卒の医師(義務履行中の者に限る)や自治医科大生、特別臨床実習(クリクラ)で総合診療科を選択した学生に対して、エビデンスに基づく最新の医療情報や幅広い診療科にわたる臨床手技に関する情報を入手できる体制を構築しました。

【活用実績】 (令和6年2月現在)

| 今日の臨床サポート |         |
|-----------|---------|
| ユーザー登録数   | 236人    |
| 全ログイン件数   | 3,727件  |
| 全アクセス件数   | 26,495件 |

| プロシージャーズ・コンサルツ |      |
|----------------|------|
| ユーザー登録数        | 223人 |
| 全ログイン件数        | 79件  |

## ② 熊本県地域医療連携ネットワークの構築に向けた全体調整

地域医療連携ネットワーク実践学寄附講座との連携の下、熊本県からの要請に基づき、熊本大学病院の関係診療科と調整を行い、熊本大学病院から医師26名を地域医療拠点病院等に所属する常勤医師として派遣することにより、地域の中核的な医療機関の機能強化を図りました。

また、同寄附講座の特任教員24名を、週2日、非常勤医師として地域の医療機関に派遣し、同医療機関において専門医療を提供するとともに、同医療機関に所属する貸与医師や研修医に指導等を行うことにより、上記の常勤医師の派遣と併せて、地域医療連携ネットワークの構築による、地域の安定的な医療体制の整備・充実に努めました。

同寄附講座の特任教員が担う上記の役割を明文化した職務通知書を作成し、各特任教員に熊本大学病院長から交付することで、特任教員が地域医療連携ネットワーク構築に係る役割を認識、理解を深める取組みを実施しました。

## ③ 地域の医療機関・自治体に対する将来の医療提供体制の構築に向けた

### 助言・提案、関係機関の役割や方向性に関する連携、調整の支援

地域医療・総合診療実践学寄附講座との連携により、くまもと県北病院及び河浦病院に教育拠点を設置し、地域で必要とされる医師の育成・教育機能向上を図るとともに、当該講座から派遣した教員が病院で診療を行うことを通して、地域で求められる医療に適切に対応できる医師の育成と病院の医療機能の向上に貢献しています。

本機構(地域医療支援センター)及び同寄附講座の教員が、診療支援先の病院において、医療提供体制の課題等について情報を共有するとともに、意見交換を通して地域に求められる医療提供の充実に努めています。

## ④ 修学資金貸与医師の派遣対象医療機関に関する医療勤務環境改善支援センターとの相互連携

熊本県地域医療支援関係機構等連絡会議を毎月、定期的に行い、本機構の事業をはじめ、地域医療の推進にあたり必要な事項について、熊本県医療勤務環境改善支援センターをはじめ関係機関の情報共有や相互連携を図りました。また、本機構の職員が、同センターの運営協議会等の会議にオブザーバーとして参加し、県内病院の勤務環境の改善状況や労働行政に関する情報等についても共有し、相互連携に努めました。

## (3) 女性医師キャリア支援及び子育て医師の就業継続及び復職支援

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、①復職支援、②短時間勤務、③育児支援、④メンター制度、⑤セミナー(啓発活動)を5つの柱にキャリア支援を進めることが重要と考え活動しています。

令和5年度からは、「女性医師」に加え、男性を含む「子育て医師」を支援の対象として明示しました。

今年度は以下の事業に取り組みました。

### ● 相談件数

令和5年度(令和5年4月1日～令和6年3月31日まで)の相談件数は、総計14件(対面0件、電話10件、メール4件)でした。

#### ● 相談内容の内訳(延べ相談数) 令和5年4月1日～令和6年3月31現在

|                |    |              |    |
|----------------|----|--------------|----|
| お留守番医師制度について   | 1件 | 復職相談         | 0件 |
| 働くこと働き方について    | 0件 | メンター制度について   | 1件 |
| 求人との問い合わせ      | 6件 | 同僚・医局の医師について | 0件 |
| 保育施設について       | 2件 | 子育てについて      | 1件 |
| 支援制度についての問い合わせ | 0件 | 社会保障等について    | 0件 |
| ネットワークづくり      | 0件 | マタニティ白衣・パンツ  | 3件 |

今年度は「求人」「マタニティ白衣貸出」に関する問い合わせの相談が多い状況でした。

● 復職支援(お留守番医師制度)

週1回(場合によっては月1回も可能)から復職したい方へ「お留守番医師制度」を設けています。「お留守番医師制度」では、家庭との両立や自身の健康などに不安を抱える方にも復職しやすい環境の協力機関(現在18医療機関)と連携しています。

在宅医療を開始したい医療機関にとっては代診医師の確保に繋がり、地域住民にとっては、かかりつけ医の訪問診療を受けることが可能になるwin-win-winの相互システムです。

**CLOVER** 診療所の先生方 訪問診療時間に「お留守番Dr」システムを利用してみませんか?

かかりつけの患者さんの訪問診療をお断りされたことはありませんか?  
訪問診療に割く時間がないし、ましてやもう一人医師を雇う経済的な余裕なんて・・・

長年培われた先生と患者さんの関係をそのまま継続し、患者さんの自宅に赴く訪問診療に取り組みたいはいかがでしょうか?  
貴院の外來診療に協力してみようと思っている医師に、医療機関の情報を開示し、まずは体験の機会を得て頂くシステムです。条件が合えば外來診療の協力が繋がればと思います。

県下各地域で何ったお話を元に、在宅医療へ取り組む医師への応援団として、この事業を企画しました。  
県内どこへでも、詳しい説明に参ります。地域の先生方にもお声がけいただければ幸いです。

お問い合わせ：熊本県地域医療支援機構(熊本大学病院 地域医療支援センター内)  
TEL:096-373-5795  
メールアドレス：k-joseishishi@kumamoto-u.ac.jp  
復職支援コーディネーター 原田 洋子

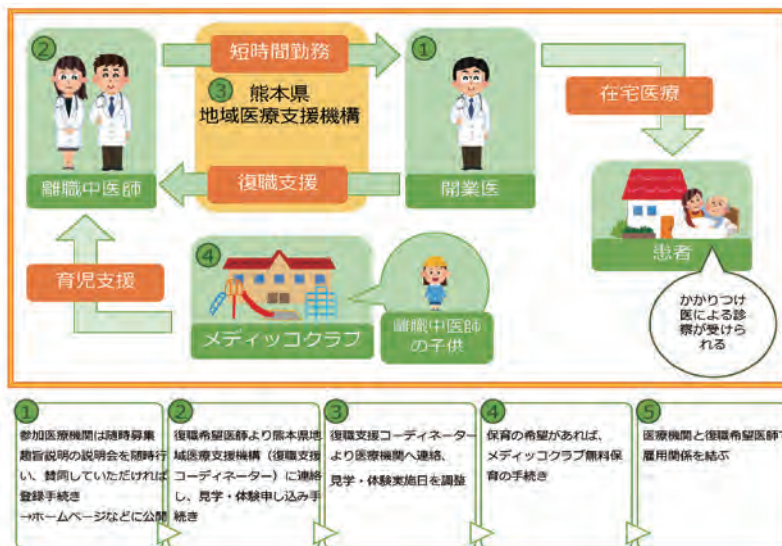
● お留守番医師制度に加入している医療機関

|        |                  |
|--------|------------------|
| 熊本市中央区 | 明午橋内科クリニック       |
| 熊本市南区  | 土井内科クリニック        |
| 熊本市南区  | 御幸病院             |
| 熊本市北区  | 清藤クリニック          |
| 熊本市北区  | なかむらファミリークリニック   |
| 熊本市北区  | まえだクリニック         |
| 荒尾市    | 西原クリニック          |
| 玉名市    | ひがし成人・循環器内科クリニック |
| 菊池市    | 菊池郡市医師会立病院       |
| 菊池市    | 宮本内科クリニック        |
| 阿蘇郡    | 阿蘇立野病院           |
| 上益城郡   | 谷田病院             |
| 上益城郡   | 山地外科胃腸科医院        |
| 上益城郡   | 益城なかぞのクリニック      |
| 宇土市    | 宇土中央クリニック        |
| 宇城市    | 済生会みすみ病院         |
| 宇城市    | 中村医院             |
| 水俣市    | 山田クリニック          |

(2024年3月31日時点)

熊本県女性医師キャリア支援センターの復職支援コーディネーターが復職希望者の体験申込みを受け在宅医療を開始したいドクターと繋ぎ、体験日を決めます。体験が上手くいけば当事者同士で3か月更新の契約を結びます。この制度で勤務中には、体験時のみ熊本市医師会保育所「メディッククラブ」が無料で利用できます。

今年度のお留守番医師制度の体験者はありませんでしたが、継続されていた2名のうち1名の医師が終了され、子育てをしながら医療機関に勤務しておられます。平成28年度開始からの利用者は体験のみも合わせて7名です。



● マタニティ白衣・マタニティパンツの貸出しサービス

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、熊本県内に在住の妊娠中の医師にマタニティ白衣・パンツを無料で貸出ししています。

**マタニティ白衣  
マタニティパンツ  
貸し出しをしています。**

無料貸出し

熊本県女性医師キャリア支援センターでは、妊娠中の医師にマタニティ白衣とマタニティパンツの貸し出しをしています。貸し出しの対象は熊本県内に在住の妊娠中の医師で、非常勤医師や研修医もOKです。

体型の変化に対応  
動きやすさを重視  
すっきりとしたシルエット

W 熊本県女性医師キャリア支援センター  
Kumamoto women's career support center for women doctors

詳しくは表紙をご覧ください。

マタニティ白衣について

- ✓ S・M・L、パンツのサイズはM・Lがあります。(当センターで試着ができます。)
- ✓ 胸もと、腰もとのアジャスターで調整ができます。

| サイズ | 着丈  | バスト | 肩幅 | 袖丈 |
|-----|-----|-----|----|----|
| S   | 90  | 112 | 38 | 51 |
| M   | 95  | 116 | 39 | 51 |
| L   | 100 | 120 | 40 | 51 |

白衣の腕とポケット・パンツの刺繍

- 熊本県女性医師キャリア支援センター シンボルマーク
- W 女性医師も復職がうまくいってV、現場の医師も助かってV、お互いのVとVが合わさってW。  
Win Winの関係のWと、Woman doctorのWを表現しています。
- 熊本県医療人キャリアサポート CLOVERの会 シンボルマーク
- 地域 (aree) を愛 (love) で満たして個々のキャリア (career) を

マタニティパンツについて

- ✓ パンツのサイズはM・Lがあります。(当センターで試着ができます。)
- ✓ ウエストのアジャスターで調整ができます。

Mサイズ デザイン      Lサイズ デザイン

シンボルマーク      アジャスター

| サイズ | 腰囲     | ヒップ | 股上 | 股下 |
|-----|--------|-----|----|----|
| M   | 85~100 | 102 | 27 | 68 |
| L   | 84~109 | 108 | 30 | 78 |

令和5年度は新たにLサイズの白衣、パンツを6着ずつ製作し、白衣はS、M、Lサイズ、パンツはM、Lサイズを揃え、より多くの方が快適に利用できるようにしました。

これまでに利用された方からは、「お腹が大きくてもボタンをとめて白衣が着られたのが一番良かった。外来の時もありお腹が目立たなかったようでした。」と好評を得ています。

今年度は熊本市外にお住まいの医師を含め3名が貸出を受けておられます。県内どこにお住まいの医師でも利用することができます(送料は利用者負担)ので、サービスの周知を図り、是非多くの医師にご利用いただきたいと考えています。



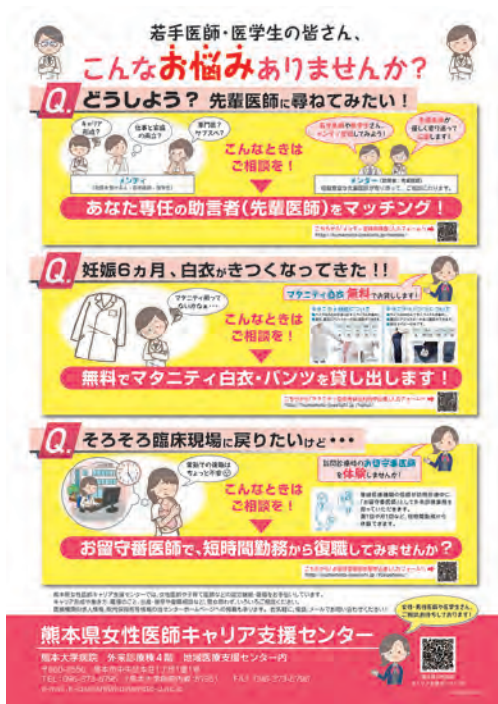
● 学生への啓発活動

4学年講義

令和5年5月22日 行動科学Ⅱ 「医師の男女共同参画とワークライフバランス、キャリア形成」

● 広報活動

- ・ホームページ、携帯サイトの運営
- ・ホームページでは「復職支援」「短時間勤務」「育児支援」「メンター制度」「セミナー情報」「求人情報」「マタニティ白衣の貸出」「相談窓口」「介護支援情報」などを掲載しています。
- ・熊本県女性医師キャリア支援センターのポスターを700枚、チラシを1,000枚作成し関係機関に配布しました。
- ・県修学資金貸与医師について、仕事と子育ての両立に関する不安や悩みの解消に資するため、知事指定病院勤務期間中における出産、子育て時の義務年限の取扱いに関するパンフレットを医療政策課、地域医療支援機構連名で作成し、地域医療支援機構ホームページに掲載しました。



● 女性医師キャリア支援に関するネットワーク構築

地域医療支援機構、熊本県医師会男女共同参画委員会、熊本市医師会女性医師キャリア支援センター、熊本大学病院男女共同参画推進委員会で協力して組織した「熊本県医療人キャリアサポートの会(クローバーの会)」の活動で、各機関が連携して講演会やセミナーなどの啓発活動、短時間勤務制度の有効活用などのための相談業務、育児支援等を実施し、女性医師の勤務の継続、円滑な職場復帰等を進めています。今後の医師の働き方改革も念頭に、熊本県医療勤務環境改善センターとも連携して、女性医師及び子育て医師が、働きやすく安心して子育てのできる環境の中でキャリア形成が図られるよう、支援を進めていくこととしています。

女性医師等支援の専任医師が令和4年度末に退職後、令和5年度は不在となりましたが、令和6年度当初から着任予定です。

## (4) 県内外の医師、医学生等からの相談対応及び求人に関する取組み

### ① 県内外の医師、医学生等からの相談窓口の設置、面談対応

本機構(地域医療支援センター)に相談窓口を設置。貸与制度の内容や諸手続き、キャリア形成と義務履行の両立等に関して、貸与学生や貸与医師がいつでも相談できる窓口体制を整えています。

今年度、相談窓口には、貸与医師を中心に、主としてメールにより、育児休業に関すること、傷病による医師業務従事の中止や再開に関すること、第2及び第3グループに勤務する貸与医師の週1回の勤務先以外の病院での研修に関すること、婚姻に伴う氏名(姓)の変更に関すること等についての質問や相談があり、相談や質問内容によっては、県医療政策課とも連携を図りながら、それぞれ適切に対処しました。

また、支援機構のホームページ上に、熊本県が開設している医師の求人情報サイト「熊本地域医療ステーション」のリンクを張り、求人情報の提供を行っています。

### ② 熊本県地域臨床実習支援制度の実施

医師を目指して県外の大学(医学部)で学ぶ学生が、県内の医療機関で実施する臨床実習等を支援し、将来の医師偏在の是正や医師不足の解消につなげることを目的とした本制度(肥後ふるさと医学生実習支援事業)については、新型コロナウイルス感染症の影響により3年にわたる休止を余儀なくされていましたが、今年度は4年ぶりに事業を再開し、令和6年3月現在までに1名の利用がありました。

- ・対象者：  
県外大学に在学中の地域医療に関心を有する医学部生
- ・募集人数：5名以内(期間中)
- ・実施期間：2023年6月～2024年2月まで
- ・実習期間：原則として7日間以内(最低でも2日以上)
- ・実習内容：診療参加、診療見学等
- ・実習先施設：知事指定病院のうち協力を得られた26病院

くまもとの地域医療の現状を学びたい熊本県出身の医学部生や  
将来、くまもとの医療従事者を考えている医学部生を対象に  
地域医療を学ぶ場所の提供、実習のための費用の支援を行っています。  
(※奨励金あり)

|       |   |
|-------|---|
| 対象者   | 熊本県外の大学に在学中の地域医療に関心を有する医学部生                         |
| 募集人数  | 年間 5名以内   |
| 実施期間  | 2023年6月～2024年2月まで(予定)                               |
| 実習期間  | 原則として7日間以内(最低でも2日以上)                                |
| 実習内容  | 診療参加、診療見学等  |
| 実習先   | 熊本県内を越く県下26の公的医療機関(原則一貫希望)                          |
| お申込み先 | 熊本県地域医療支援機構ホームページを参照のうえ、<br>参加希望日の20日前までにお申し込みください。 |

詳細は熊本県地域医療支援機構へお問い合わせください。  
ホームページ「肥後ふるさと医学生実習支援事業」をからもご確認いただけます。

熊本県地域医療支援機構(熊本大学附属地域医療支援センター)  
〒966-3735-6277 [rs.chiiki-hyo@kumamoto-u.ac.jp](mailto:rs.chiiki-hyo@kumamoto-u.ac.jp)

### ③ 県内外医師へのリクルート活動

地域医療を担う総合診療医の確保につなげることを目的に、令和5年5月に愛知県で開催された「第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会」に専任医師及び専従職員(コーディネーター)が参加し、熊本大学病院総合診療科のブースを出展しました。

大学病院の総合診療科の医師が支援先の病院で地域医療に奮闘する姿を紹介した動画を上映したほか、熊本大学総合診療科のプログラム紹介のポスターを掲示し、本機構の取組みを紹介するために、広報誌「COCODE」を展示、配布しました。

また、同学術大会のポスターセッションには、本県から6人の貸与学生が参加し、「熊本大学の地域医療ゼミの取組み」など2つの取組みについて、学生自らが発表を行いました。



## (5) その他、機構の目的を達成するために必要な取組み

### ① 熊本県地域医療支援機構理事会の運営

令和6年2月21日に、第15回熊本県地域医療支援機構理事会を実施しました。  
以下の議題について審議され、いずれも異議なく承認されました。

#### 【議題】

- (1) 令和5年度(2023年度)事業実績について
- (2) 令和6年度(2024年度)事業計画案について
- (3) 令和6年度貸与医師派遣計画(勤務先)案について

#### 【報告事項】

地域医療連携ネットワーク事業について

### ② 熊本大学病院総合診療科及び地域医療・総合診療実践学寄附講座、 同大学病院総合臨床研修センター、熊本大学医学部、熊本県へき地医療支援機構との連携

医師が不足する病院への診療支援、地域医療ゼミの開講、熊本県地域医療支援関係機構等連絡会議を開催のほか、支援機構の職員が、熊本県医療勤務環境改善支援センターが開催する運営協議会等の会議にオブザーバーとして参加し、県内病院の勤務環境の改善状況や労働行政に関する情報等を共有し、相互連携に努めました。

### ③ 地域医療に関する周知啓発

#### ● 熊本県地域医療支援機構講演会

##### 【令和5年度熊本県地域医療支援講演会】

日時 2024年2月9日(金) 18:00～  
会場 熊本大学医学総合研究棟3階講習室(※対面とリモート併用によるハイブリッド方式)  
講師 青森県立保健大学大学院健康科学研究科 特任教授 大西 基喜 先生  
演題 青森県における保健医療の課題解決に向けた取組み

人口減少・高齢化の進展、労働人口の減少に伴うマンパワーの制約等、地域医療を取り巻く環境は相変わらず厳しい面があり、今後、持続可能な医療提供体制を維持していくためには地域医療に関わる全ての当事者が連携し、中長期的な観点に立った取組みを進めていくことが求められています。講師としてお招きした大西先生は本県と同様に地域医療を担う医師不足や人口減少、高齢化の進展という状況に加え、厳しい自然・地理条件という様々な課題を抱える青森県において、地域医療に伝えるべく、青森県立保健大学で教鞭をとり次世代の医療人育成に取り組みされるとともに、青森県健康福祉政策課で保健医療政策推進監としてこれらの課題改善に尽力されています。本県におけるこれからの地域医療提供体制の在り方や、課題改善について関係者全体で考える機会とするために講演会を実施しました。

講演会には、リモート併用のハイブリッド方式で行い、対面と合わせて74名の方にご参加いただき、講演後のアンケートでは、聴講者の93%が「大満足」又は「満足」という結果となり、有意義な講演会となりました。



令和5年度熊本県地域医療支援機構講演会

# 青森県における保健医療の 課題解決に向けた取り組み

青森県立保健大学 特任教授  
大学院健康科学研究科 大西 基喜 先生

日時 2024年2月9日(金)18:00~19:10

会場 熊本大学医学総合研究棟3階 講習室

人口減少・高齢化の進展、労働人口の減少に伴うマンパワーの制約等、地域医療を取り巻く環境は相変わらず厳しい面があり、今後、持続可能な医療提供体制を維持していくためには地域医療に関わる全ての当事者が連携し、中長期的な観点に立った取り組みを進めていくことが求められている。そこで本項と同様に地域医療を担う医師不足や人口減少、高齢化の進展という状況に加え、厳しい自然・地理条件という様々な課題を抱える青森県において、地域医療に応えるべく、青森県保健大学で取組をとり次世代の医療人育成に取り組むとともに、青森県健康福祉政策課で保健医療政策推進室としてこれらの課題改善に尽力されている大西 基喜 先生にご講演いただき、本項におけるこれからの地域医療提供体制の在り方や、課題改善について関係者全体で考える機会として開催します。

**参加方法**

参加ご希望の方は、「申込方法」により、事前のお申し込みをお願いいたします。

※Zoomで参加される場合は、参加申し込み後に視聴用URL及びログインID・パスワードをご案内いたします。

**対象** 地域医療に関わる医師、医療関係者、自治体職員など

**定員** 80名 **参加費** 無料

※日本医師会認定生涯学習講座単位及び、日本プライマリ・ケア連合学会専門医・認定医更新単位を申請予定です。

**申込方法**

次のことをご明記のうえ、下記メールアドレスまでお申し込みください。

件名 「R5機構講演会申込」

本文 氏名、所属機関、役職(職種)  
メールアドレス、電話番号  
参加方法(対面またはZoom)

申込先 [chiki-iry@kumamoto-u.ac.jp](mailto:chiki-iry@kumamoto-u.ac.jp)  
申込締切 2024年2月2日(金)

こちらのQRコードからもお申し込みいただけます。

**【お問合せ先】**  
 熊本県地域医療支援機構事務局  
 (熊本大学病院 地域医療支援センター内)  
 〒860-8556 熊本中央区本庄1-1-1  
 ☎ 096-373-5627 ✉ [chiki-iry@kumamoto-u.ac.jp](mailto:chiki-iry@kumamoto-u.ac.jp)



## ● ホームページ、メールマガジンによる情報発信等

本機構が実施する講演会等の取組みや広報誌「COCODE！（ココデ）」の電子版を、ホームページに随時掲載し、情報発信を図りました。また、当機構メールマガジンの登録者(780名)に対して、メルマガによりダイレクトに情報提供を行いました。

## ● 熊本県地域医療支援機構広報誌「COCODE！（ココデ）」の発行

令和5年度においても、医学生や若手医師並びに将来医師を目指す高校生等に地域医療及び総合診療に関する理解を深めてもらうとともに、地域住民に対して地域医療にかける医師の熱い思いや奮闘ぶりを伝えるため、地域医療支援機構広報誌「COCODE！（ココデ）」を令和5年9月にVol.6(特集：阿蘇エリア、阿蘇医療センター等)、令和6年3月にVol.7(特集：天草エリア、御所浦診療所等)の2回発行しました。



熊本県地域医療支援機構

# WhyGP?

球磨郡公立多良木病院 永田洋介先生(中央)  
熊本大学医学部医学科5年 高田雅希子さん(右)  
熊本大学医学部医学科4年 平木亨弘さん(左)

**総合診療医の大変だとおもうところを教えてください**

永田先生: はじめまして永田洋介です。自治医科大学を卒業し、医師になって8年目です。公立多良木病院で総合診療医として働いて、総合診療所の所長をしています。

高田: よろしくお聞かせします。早速ですが、総合診療医として働いておられる大変だとおもうところ、やりにくいと感じてくるところを教えてください。

永田先生: 医師になりたての頃は、先輩方の指示を指さながら診療することも多かったのですが、経験を重ねると、自分の判断がダイレクトに治療に反映されることが増えて、責任が増えます。医療は常に進歩しており、かつて習ったことと最新の治療法が、治療の第一選択肢になることがあり、情報交換や勉強会に参加することで、その知識を常にアップデートすることは医師としての責務です。その結果、治療がうまくいき、患者さんやご家族に喜んでいただけたときの大きなやりがいにつながります。

**“患者さんファースト”で取り組む**

平木: 総合診療科って幅広い知識が必要だと思うんですがこれは最低限覚えておかないといけないじゃないですか。これは覚えておかないといけないなみたいな感じに聞いていたんですがお考えでしょうか。

永田先生: 緊急度が高く、命にかかわる病気の知識は、絶対に

さておかなければなりません。また、ここからは僕の考えなんですけれども、自分が診療することで患者さんにメリットがあると判断できれば、どこまでやっておいてもいいと思います。各科の専門医でなければできない高度な治療であれば、専門医につなぐ方がメリットがあります。ただ、その辺の線引きは先生によってもさまざまで、総合診療の先生で難症や不十分な治療をしておられる方もたくさんいますし、各科の専門医にアドバイスをもらえば、総合診療だけでも専門医の治療と同様の高度な治療ができることも多いんです。“患者さんファースト”を心掛ければ、自然と見えてくると思います。

**総合診療医以外の選択肢を考えられたことはありますか?**

高田: 初期研修先をどこにしようかなと悩んでいるんですが、先生が初期研修や専門医取得まで含めたキャリア形成について考え始めたのはいつ頃ですか?

永田先生: 私が初期研修先に熊本赤十字病院を選んだのは、救命を経験しておきたかったからというのがあります。初期研修後は地域に出ることが決まっていたので、それこそさっさと就職すけど、絶対覚えておかないといけない知識とか、患者さんに命の危険がある時にどうに対処すべきなのかをしっかりと経験しておきたかったからです。専門医取得について考え始めたのは、初期研修医になってからですね。昨年、総合診療専門医を取得しました。

## 若手医師×学生二人座談会

### 総合診療医のリアルを直撃 「教えて先輩！」

日々、学びを深める医学部学生が抱える疑問や不安を、実際に総合診療医として活躍している若手医師に直撃する人気企画！今回は公立多良木病院で総合診療医として働く永田洋介先生に、学生二人が、総合診療医のやりがいなどについて聞きました。

**地域連携って、活躍の場がどんどん広がる！**

高田: 総合診療医の魅力ってなんですか?

永田先生: 総合診療医は「医師の役割に打ちをともす」仕事だと思います。医療現場に貢献し、なるべくたくさんの方の灯りをともしたいという思いで、多くの総合診療医が働いています。また医師として患者さん診療するだけでなく、病気の仕組みを改善したり、行政などと連携して地域の医療を支えたいという気持ちも強まっています。熊本県内にはそのような取り組みを積極的に進めて、さまざまな実を享受されている先生や、地域の研究発表会を通じて、ほかの医学部で活躍されている先生もいらっしゃいます。研修生とどうやって自分次第で地域に貢献し、活躍できる機会を多くとってほしいですね。

高田: 永田先生おかげでとらえられました。お話を聞いて、私も頑張っていこうという気持ちになりました。

平木: 総合診療はとっても早く、各科の専門医は特化して深くってイメージだったんですが、そんな風に目指すに、自分の頑張りがいっているんですか?

永田先生: 総合診療医はともやりにくいところがあると思いますが、総合診療科ですごくかっこいいなと思いました。

永田先生: 総合診療医はともやりにくいところがあると思いますが、総合診療科ですごくかっこいいなと思いました。お話を聞いて、私も頑張っていこうという気持ちになりました。

**地方勤務で育休ってとれるんですか?**

平木: 今の時代は、男性も育児休暇を取ろうみたいな動きがあると聞きますけど、男性医師でも育休は取れますか?

永田先生: 取れると思います。実際取られた方もいると聞いています。

高田: 地方で働いている女性の先生で産休や育休を取られている先生はいらっしゃいますか?

永田先生: 妊娠、出産を経て子育てをしながら医師として地方で働いている女性の先生はいらっしゃいます。熊本県は産休・育休などに関するプログラムが充実してきていて、お休みされている方、ほかの病院から派遣の先生に来ていただけたような仕組みもあります。

たいせつなひとを診る。  
たいせつなふるさとで、

熊本  
天草市  
御所浦町

熊本県地域医療支援機構  
熊本大学病院 地域医療支援センター内  
熊本県中央区本庄1-1-1  
TEL:096-373-5627  
http://www.shiki-hyo-kumamoto.org/  
ご感想、ご意見お待ちしております。

写真: 成瀬 隆 (天草市)

ココ、熊本で、地域の医療を支える。ココデ!

2024 Spring vol.7

ココ、熊本で、地域の医療を支える。ココデ!

ココデ

2024 Spring vol.7

Top Interview  
天草エリアと、  
わたしが交わした  
3つのミッション  
天草市立御所浦診療所  
所長  
古賀義規先生

写真: 高野から新所浦までをのぞく

Take Free  
熊本県地域医療支援機構 広報誌

# WhyGP?

## 若手医師×学生二人座談会 総合診療医のリアルを直撃 「教えて先輩!!」

日々、学びを深める医学生が抱える疑問や不安を、実際に総合診療医として活躍している若手医師に直撃する人気企画!  
今回は熊本大学病院地域医療支援センター-特任助教の高橋宏史先生に、学生二人が総合診療医の魅力などについて聞きました。

**地域でのケアの重要性を目的に、医療者へ**  
高橋先生: 皆さん、こんにちは。熊本大学病院に勤務を置き、家庭医療専門医、そして指導医として、若手を指導しています。よろしくお願ひします。  
山口: よろしくお願ひします。早速質問ですが、先生が総合診療医を目指されたきっかけを教えてください。  
高橋先生: 家庭医の歴史を学ぶ熊本大学医学部の歴史を学ぶ機会をいただき、初年研修2年目の夏に熊本で開催されたサマーフォーラムに参加したことがきっかけです。そこで、家庭医という専門領域があることを知り、また、後継研修で、もともとの特長がコントロールが難しい方や未治療の方が、血液透析や心臓イベントで選ばれてくることが多くありました。家庭医として地域で患者さんのケアをしっかりとすれば、3次の救急外来に搬送されるようなイベントが起こることを避けられ、家庭医が重要だと感じようになりました。  
山口: どうして指導医を目指されたのですか?  
高橋先生: 日本での家庭医の歴史は長く、大学の講義でも学ぶ機会が少ないと思います。「総合診療医は、自分がなりたい医師そのもの」という学生さんも、学ぶ機会が少ないことで、進んで進んでいられるケースも多く、教える人が必要だと感じました。

**横断的に診る医療者としての大切**  
山口: 外科などで特長ある技術をも身につけてから総合診療医の道に進んだ方がいいのか、すぐに総合診療医として経験を積み重ねる方がいいのか悩んでいます。  
高橋先生: 私は、総合診療に最初から入りたいと考えています。総合診療以外の専門領域では、腫瘍、分子腫瘍など、細分化して診ていくことで、病態の解明や治療方法を考えます。総合診療というには、分ける視点を持ちつつも、本人や家族、地域などをトータルにみていくという考えです。別の領域に進んで細分化した領域を持つと、総合的に診ることに不安や抵抗を感じるかもしれません。最初から総合診療医を目指すことで、横断的に診ることを知り、その経験が後で役立つのではないかと思います。

**一日のスケジュールを教えてください**  
山口: 先生の一日のスケジュールを教えてください。  
高橋先生: 曜日によって違います。たとえば昨日は、御所浦診療所に診察に行きました。7時30分の新幹線で水原まで行って、その後に乗って、9時くらいに御所浦診療所に着いて外来をします。午後の外来が終わる17時まで診療をして、19時半くらいに帰宅し、23時には寝て休んでいます。今日は熊本大学病院勤務でした。8時から17時まで救急外来を担当しました。その間に講義の準備やメールの返信などをしました。  
山口: 出張、育児とキャリアとの両立が心配です。高橋先生: 最近では地方でも働き方改革が進み、タスクシェアリングなどにより医師の負担が軽減される傾向にあります。また、旦那さんや両親のサポートを受けながら地域で出張、子育てをしながら、新しい女性医師も増えています。

**「いい医療者」ってどのような人ですか?**  
山口: 総合診療の現場で、やりがいを感じたエピソードを教えてください。  
高橋先生: 患者様とのコミュニケーションの深さややりがいがあると思います。患者様とのコミュニケーションの深さややりがいがあると思います。患者様とのコミュニケーションの深さややりがいがあると思います。

**地域医療の未来とは?**  
山口: 地域医療の未来についてどのようにお考えですか?  
高橋先生: この先、多職種連携が今まで以上に求められると思います。医師の役割もそれに伴って変わっていくでしょう。そして、そんな変化は都市部よりも地域でこそ起きやすいと思います。インバウンダーは地域で起きます。これから地域で医療に従事する方

COCODE!